「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」における工程表

申請担当大学名	琉球大学
連携大学名	佐賀大学
事業名	島医者・山医者・里医者育成プロジェクト（ER 型救急・総合診療に対応できる医師育成）

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	・本事業では、臨床推論力や臨床スキル能力が向上することを目指し、チュートリアルおよびVR教育やICT（情報通信技術）、遠隔学習システムを駆使し、ER型救急及び小児から高齢者まで診療できる総合医を数多く育成でき、医師の地域偏在や診療科偏在を解消することを達成目標としている。 またポストコロナの時代にも適応できる医学教育を提供できる方法を確立していく。 ・琉球大学では、標準プログラム、地域医療プログラム、研究医プログラムの3つのプログラムを作成し、令和5年度以降、地域枠学生[地域枠(14名)及び離島・北部枠(3名)を含む] と地域医療に興味のある学生のための地域医療プログラムの「総合診療医コース」と「救急・総合診療能力を有する専門医コース」として計最大25名を受け入れる。佐賀大学では、令和5年度以降、地域医療プログラムの「総合診療医コース」として毎年5名を受け入れる。それらの学生を初年度とし、臨床実習前後の卒前教育を変革し、ER型救急及び小児から高齢者まで診療できる総合医を毎年確実に輩出していく。 ・長期的には本事業終了後も、沖縄県・佐賀県にとどまらず、同様のプログラムが全国に広がり、ER型救急及び小児から高齢者まで診療できる総合医を数多く育成でき、医師の地域偏在や診療科偏在という問題の解消に寄与することができることを期待している。

② 年度別のインプッ

		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
インプット・プロセス（投入、入力、活動、行動）	定量的なもの	・主幹・連携校全体キックオフミーティングの開催（参加者約20名）	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（17名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（一期生）	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（二期生）	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（三期生）	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（四期生）	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（五期生） ・琉球大学：5-6年次での臨床実習長期滞在型クラークシップを8週間以上を必修化。	・主幹・連携校コアメンバー定期ミーティングの開催（月1回程度） ・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の受入れ。（六期生） ・琉球大学：5-6年次での臨床実習長期滞在型クラークシップを8週間以上を必修化。
	定性的なもの	・R5年度第一期生向けの新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成。 ・本事業のプロジェクトチーム立ち上げ。 ・主幹・連携校での基盤整備。 ・ホームページの立ち上げ。 ・琉球大学：R5年度第一期生からの新しいカリキュラムの作製開始。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（一年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の開始。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（二年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の推進・発展・改善。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・主幹・連携校合同ワークショップ開催。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（三年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の推進・発展・改善。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・主幹・連携校合同ワークショップ開催。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（四年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の推進・発展・改善。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・主幹・連携校合同ワークショップ開催。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（五年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の推進・発展・改善。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・主幹・連携校合同ワークショップ開催。 ・R9（2027）年度に開設される公立北部医療センターに琉球大学地域医療教育センターを設置。 ・年度評価の実施。	・第一期生向けの新カリキュラム導入（六年次科目） ・チュートリアルおよびVR教育やICT利用や遠隔学習教育等の推進・発展・改善。（コンテンツ開発含む） ・ホームページの運用。 ・主幹・連携校合同ワークショップ開催。 ・公立北部医療センター内、琉球大学地域医療教育センター運営。 ・最終年度評価の実施。

アウトプット（結果、出力）	定量的なもの	・琉球大学の「地域医療プログラム」（地域枠17名）、佐賀大学「総合診療医コース」（地域枠5名）履修生（一期生）の決定。	・琉球大学「地域医療プログラム」（17名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（二期生）	・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（三期生）	・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（四期生）	・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（五期生）	・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（六期生）	・琉球大学「地域医療プログラム」（最大25名）、佐賀大学「総合診療医コース」（5名）の履修生の決定。（七期生）
	定性的なもの	・ホームページによる情報発信。 ・外部評価委員会の事業評価を反映。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。	・新しいカリキュラム用教育コンテンツ作成・高品質化。 ・ホームページによる情報発信。 ・全体会議議事録の整理、決定事項の徹底。 ・当該年度事業実施経験（内・外部評価含む）より翌年度事業へのフィードバック。 ・本事業成果に関する最終シンポジウム・報告会の開催、最終報告書の作成。
アウトカム（成果、効果）	定量的なもの							・プログラム修了者の輩出（第一期生：琉球大学17名、佐賀大学5名）
	定性的なもの	・本事業の幅広い周知。	・本事業の周知向上。	・本事業の周知向上。	・本事業の周知向上。	・本事業の周知向上。	・本事業の周知向上。	・本事業の周知向上。 ・輩出した人材の地域医療への貢献。

③ 選定委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	常に先進的・革新的な取組内容となるよう自己点検・評価のみならず、医療現場・自治体等のニーズを取り入れるための努力を欠かさないこと。	・本事業では、琉球大学で地域医療プログラムを選ぶ25名が、低学年ではチュートリアルおよびVR教育やICT利用の学習教育等が中心の先進的学習をメインとし、高学年での臨床実習では、「総合診療医コース（5名）」は12週間、「救急・総合診療能力を有する専門医コース（20名）」は8週間、関連病院や診療所での長期滞在型クラークシップを経験し、これまでにない画期的な医学教育経験をすることとなる。将来医師になる際に非常に有意義な経験である。 ・事業期間中は、県立中部病院等の県立病院群、離島・へき地診療所等、多数の医療機関や県の機関との緊密な連携体制を構築し、それらの関係機関からのニーズをしっかり受け止め、改善に結び付けたい。
②	代表校のみならず連携校も含め、長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は、成果の波及とともに更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	・琉球大学：医学教育企画室内に本事業のプロジェクトチームを維持し、補助期間終了後も事業を継続実施する。そのためには、専任教員及び事務担当を継続して雇用する必要があり、学内及び地域・行政（沖縄県等）に本事業の成果を報告をし、大学本部および沖縄県、行政や地域医療機関、医師会と連携して、補助金の獲得を目指していく。2027年度に開設される公立北部医療センターの教員にも協力して頂く予定である。 ・佐賀大学：地域医療人の育成・定着を目指した「SAGA Doctor-Sプロジェクト」を開始するとともに、佐賀県の委託講座として医師育成・定着支援センターを設置し、行政や地域医療機関、医師会と連携して、高大連携から医療人育成、女性医師支援まで、幅広い活動を行っている。事業終了後もこれらを発展させ継続していく。

④ 選定委員会からの主なコメントに対する対応方針

選定委員会からの主なコメント（改善を要する点）	対応方針
ハワイ大学を中心に各種の企画が提案されているが、なぜ沖縄県と佐賀県に存在する医師の地域偏在・診療科偏在、地域特有の課題等にそれが有効なのかの説明がない。	・これまで沖縄県では、県立中部病院がハワイ大学からの指導の元、米国式の研修プログラムで、ER型救急等、多くの症例を経験することにより、医師や琉大医学生が臨床能力を身につけてきた。また琉球大学はハワイ大学からシミュレーション教育の指導・導入も受けている。また、歴史のあるハワイ大学のPBL教育を先進的に日本に適合させプログラムを開発をしてきたのが佐賀大学であり、両大学ともハワイ大学とは密接な関係である。よってこれら全てを結び付け、両大学で、チュートリアルおよびVR教育コンテンツを共同開発しながら、臨床実習前後の教育を発展させていく予定である。
全体的に具体的ではない。	・文章が長く、少々具体性に欠けていたかと思われるが、計画に基づいて、確実に新規性・独創性をもって、実施していく予定である。
連携校やハワイ大学の役割・責任・体制などの記載が乏しい。	・佐賀大学は、ハワイ型PBLを我が国の医学教育環境に適合させたTBLやCBLを開発してきた。琉球大学はハワイ大学との連携によりシミュレーション教育の実施と指導医養成を行ってきている。これらの長所をお互いの大学に教授し合う予定である。またこれらの取り組みはハワイ大学医学教育室(Kasuya先生、Oomori先生）とシミュレーションセンター(Berg先生）との連携を活かしながら発展させる。
事業継続の前提が外部の補助金を今後獲得する予定となっており、継続性に疑問がある。	・医学教育企画室内に本事業のプロジェクトチームを維持し、補助期間終了後も事業を継続実施する。そのためには、専任教員及び事務担当を継続して雇用する必要があり、学内及び地域・行政（沖縄県等）に本事業の成果を報告をし、大学本部および沖縄県、行政や地域医療機関、医師会と連携して、補助金の獲得を目指していく。
プログラムを履修した卒業生の進路調査やポートフォリオ、発表会があるとよい。	・最終年度（令和10年度）に、プログラムを履修した卒業生の進路調査やポートフォリオ、発表会を予定している。